

議 事 録 兼 報 告 書

会議等名称	平成28年度 伊那市子ども・子育て審議会 病児保育部会
日 時	平成28年7月7日(木) 午後7:05～7:50
場 所	市役所 304会議室
欠 席 者	
議 題	病児保育の実施について
議 事 内 容	
<p>1 部会長選出 尾崎航也委員選出。</p> <p>2 病児保育について</p> <p><事務局> (3) 病児保育の実施 関係資料により説明をする。</p> <p><部会長> 質疑及び病児保育に関する考えについて広く意見を求める</p> <p><委員> 10年ほど前に市長が議会で「中病で病児保育を」を発言している。また最近の新聞報道でもされていると思うが違うか。</p> <p><事務局> 中央病院も視野にいれる中で検討していきたいということで決定ではない。</p> <p><委員> あくまでも「子どもの健康・安全」が主体。それを考えて話を進めていかないと。駒ヶ根の「まえやま」で利益なしで地域貢献として実施しているが、利用者が激減しており、このまま厳しい状況が続くと撤退の可能性もある。その志を尊重すべきというのが医師会の考え方。市で利用促進してもらいたいし、補助をお願いしたい。更に、広域的に考える中で「生協」も市からの要請があれば用意があるとのこと。</p> <p>どちらも伊那市中心地から20分位の所にあり、病児保育施設はひとつでなくてもよい。そんな中でこの先何を目指すか。市内開業医は高齢化で無理なので、新規開業か中病ということになるが、組合なので、伊那市、南箕輪、箕輪の3市町村が対象となるが、その場合「生協」をどうするか。上伊那全体で考え、「生協」の利用減をどう補っていくのか考えないといけない。</p> <p>もう1点、当面どうするか。整備には2～3年かかる。「まえやま」「生協」は前述のとおりであり、医師会もぜひ病児をという話もある中、「まえやま」が切迫しているので委託し、補助するよう検討を願いたい。また、市で病児施設ができたからそこで止めるということは失礼になり、引き続きの援助は必要と思うし、医師会としても継続補助を希望する。</p> <p><部会長> 実施できる団体・施設が限られている。可能性があるのは中病。今受けていただいている施設も考慮して進めていかないと。</p> <p><委員> 保育士は専門性を持った人があたることになるが、季節によって利用者には大きな変動が有り、日常的に確保するのが資金的等の面で困難。採算ベースでは難しく、社会福祉貢献、善意の部分となると思うので市である程度面倒を見なければ。</p> <p>定員も少ない。インフル等の季節対応はできない。断る部分もあると思うがその場合は家庭で看なければならぬ。施設を作るのは大切だが、同時に企業が休みの取りやすい雰囲気を作るのも大事。市として企業への働きかけや住民に理解を求めていくことも大切と思う。</p> <p><委員> 保護者が看るのが理想だが、誇張すると病児保育事業が成り立たなくなってしまう</p>	

ので、医師会でも議論があったがそこは意識をしていかないといけない。「親が看るべきだ。病児は必要ない」とならないように。

<委員> この事業は保育園と施設が連携していかないと保育士確保等成り立っていかないと。保護者は仕事があるので、多少熱があっても保育園に預けているし、具合が悪くても迎えに来れない状況がある。また、お金をかさねなければとなると病児に預けるのは躊躇すると思うので、そこをどうしていくか検討が必要。

<委員> 保育士については、研修での認定制度があり利用することも可能。併せて看護師確保も必要。乳児院は連絡体制がとれて病児向き等、やる施設によって体制も変わり、さまざまなバリエーションがある。いずれにしても経験者等の確保必要。

<委員> 看護師が保育士として働いているが給料が安い。看護師として働きたいと言っている。そういう場合には置くことが難しくなる。

<委員> 市内無料、他地域は有料ということだが、市が補助することは親が気軽に利用できる条件になる。また、祖父母がいる場合はよいが共働きは有給もなく、母に負担がかかる。母の立場から言えばお金がかかると預けにくく、少し位病気でも保育園に預けてしまう人は多いので、施設利用はなかなかないのかと思う。中病の話があるなら、連携をとりながらできる方向へもっていったらと思う。

<委員> 「生協」など、受け入れに優先があるのか。定員が少ないので断ることもあると思うが。

<委員> それぞれの自治体で契約しているので優先はない。「生協」は従業員の伊那市在住看護師も受け入れている。当然伊那市でやれば伊那市自身が恩恵を受ける。定員があるし、事業の性質上子どもの安全を考えると断るのはしょうがない。

<委員> 当面の課題として、近隣実施施設での対応をどうするか。このままだと「まえやま」の気持ちが折れ、施設がなくなってしまう。利用している人、したい人がいる中、市としてどう考えるか。4回目の会議まで待ってられない。早急な対応が必要。

<部長> 当面どうするか、この先をどうするか、併行しながら検討していかないと。思っている。「まえやま」や「生協」に市の児童をお願いしていくことは審議会検討と併行して早急に対応する課題として捉えている。始めるには予算が必要。日程や今後の先を見据える中でどうしていくのか考えていきたい。

<委員> 放課後デイサービスについて、国の事業で予算がついている。1回の利用でかなりの補助が出ている。駒ヶ根や飯島に設置団体があるが伊那市にはない。伊那市に来てとお願いもしている。今後できてくる可能性がある。

<委員> 駒ヶ根で始める時もいろいろともめる中で、「まえやま」が手を挙げた経過がある。伊那市内では手を上げるドクターはいないが、市内実施について議論の余地はない。

<委員> 子どもの数も減少傾向にあり考慮すべきところもあるが、使用している児童や希望者がいる中で、近々としては今実施している施設を利用させてもらうべき。やってくれている施設を蔑ろにはしてはいけない。

第2回部会開催日：9月1日（木） 午後6時30分

第3回部会開催日：10月27日（木）